

カブスカウト修得課目の改訂の考え方

1. 現状の課題

- (1) 平成2年以降、修得課目の見直しが行なわれていない。
- (2) 修得課目については、きちんと（約6ヵ月位で）完修できていない。
 - ・履修認定が家庭だけに委ねているものがあり、完修につながりにくくなっている。
 - ・年間プログラムを作成する上で、うさぎ・しか・くまの各修得課目項目（内容）が統一していないことがあり、計画的な完修につながりにくくなっている。

（例）健康と安全 うさぎ(安全)、しか（事故の予防）、くま（事故への対応）
- (3) 修得課目において、室内プログラムでの履修が多い。

2. 改訂理由

- (1) 今のスカウトの特性、活動に合った修得課目への見直しが必要である。
- (2) 年間プログラムの約6ヵ月間をめぐり、修得課目が完修できるようにする必要がある。
- (3) カブスカウトとして、戸外での活動を中心にする必要がある。

3. 改訂点

- (1) 室内で行なうプログラムから、戸外で行なうプログラムを中心に履修できる修得課目に改訂した。
- (2) 家庭の協力のもと、履修する修得課目は大切であり、生活の中で役だたせることが出来る修得課目に改訂した。

ただし、履修認定については、集会時にリーダーでもできるようにした。
- (3) 一つのテーマに基づいたプログラムで、うさぎ・しか・くまの修得課目が共通的に履修できるようにした。
- (4) 「表現」については、うさぎ・しか・くまの項目を統一して、その内容を、「組の一員であることを理解」させ、「ストーリー性のある物語をスタンプ」にして、表現力を養うこととした。
- (5) 「観察」については、うさぎ・しか・くまの項目を統一して、野外で実際に観察することで、履修できることとした。
- (6) スカウトの年代の特性、月の輪やボーイスカウトの修得課目の重複を避けるように考慮した。

例えば、「地図記号」や「追跡サイン」など。但し、ロープワークについては、スカウトスキルの重要性を考え、カブスカウトの修得課目でも履修できるようにした。
- (7) ボーイスカウト隊への上進を目指す、くまの修得課目に、ボーイスカウト隊のハイキングやキャンプを体験することを追加した。

以上